

アジア養蜂研究協会



書籍等販売のご案内

1月のミツバチ科学研究会で御紹介したミツバチ科学関連書籍等をアジア養蜂研究協会では通年販売している。最新刊を含めご案内したい。

「ニホンミツバチ誌」岡田一次著（1997）玉川大学出版部：1990年発行の初版は数多くの貴重な知見と200枚以上の素晴らしい写真を含み、著者の40年にわたるニホンミツバチ研究の集大成として歓迎された。今回岡田先生の米寿を記念し玉川大学出版部から新装版が発行される。近年アジア各地でトウヨウミツバチ養蜂が再評価されており、ニホンミツバチに対する内外の関心に応えるため、英文の説明が一部加えられた。定価2,500円、限定部数を特別頒価1,500円でおわけする。

「ホントに効くのか!? プロポリス」酒井哲夫著（1996）双葉社：インパクトの強いタイトルだがまじめな啓蒙書。1章プロポリスにはどんな効果があるのか、2章プロポリス再発見、3章プロポリスの何がどう効くのか、4章ミツバチにとってのプロポリス、5章プロポリスの見分け方、6章プロポリスの使用方法。頒価800円

「ポリネーターの利用」松香光夫著（1996）サイエンスハウス：ミツバチやその他のハナバチ類を中心に、農作物の豊かな実りをもたらす花粉媒介昆虫（ポリネーター）の素顔と働きを解説し、諸外国の現状を通して新しい利用法や問題点を述べる。頒価1,600円

「マルハナバチの世界 —その生物学的基礎と応用—」小野正人・和田哲夫 著（1996）日本植物防疫協会：トマトのポリネーターとして輸入されているマルハナバチの解説書。生物学（小野担当）とその利用（和田担当）にわけて、マルハナバチの自然史、研究史、世界のマルハ

ナバチ事情、使い方から関連情報までが述べられている。頒価2,500円。

「マルハナバチ。ハンドブック —野山の花とのパートナーシップを知るために—」鷺谷いづみ、小野正人ほか（1997）文一総合出版：マルハナバチの観察を楽しんだり「地域の生物多様性」の指標としての調査などに役立つミニガイド。種類ごとの生態写真、同定に役立つ特徴、野山の花とのパートナーシップをしめす図鑑篇、形態上の特徴から種を調べる検索表と分類、形態、生態、花との関係を示す解説篇からなる。定価1,200円

「養蜂の科学」佐々木正己著（1994）サイエンスハウス：最近の昆虫機能利用、開発の動きを受け、有用昆虫、資源昆虫を代表するミツバチについて、養蜂がその高度な社会機構をどこまで活用し、コントロールしてきたかを生物学的に探り、最新の知見に基づいて人工調節技術の現状と今後の展望を述べる。頒価1,600円

「養蜂用語辞典」第9巻 IBRA 編。ミツバチ科学研究や養蜂関係の仕事を通して、世界各国と交流するときに、特に文献類を読む際には必携の一冊。特別割引中、頒価1,000円

「ミツバチのはなし」酒井哲夫編著（1992）技報堂出版：専門家の目を通して明らかにされたミツバチの神秘的な生態や生理、不思議な行動、人間との関係など最新の情報を紹介する興味深い31話。頒価1,300円

「The Asiatic Hive Bee: Apiculture, Biology and Role in Sustainable Development in Tropical and Subtropical Asia」ed. Kevan, P. (1995) Enviroquest, Ontario: (英文)

1988年マレーシアで開催の「熱帯および亜熱帯アジアにおけるトウヨウミツバチ養蜂の振興に関する会議」の論文集。玉川大学関係者の論文4編を含む本著はトウヨウミツバチ養蜂を多面的にとらえており、アジアの養蜂振興におけるトウヨウミツバチ利用の意義について理解を深めることが出来る。頒価3,500円

ミツバチの絵はがきセット 5種 (各8枚組
200円) 玉川大学ミツバチ科学研究施設:

『ミツバチカラー絵はがき』『世界のミツバチ切
手』『日本の養蜂』『ミツバチ生態絵画集』
『ASIAN HONEYBEE』

テレフォンカード 2種 (各800円)
『ニホンミツバチ, 仏様』
『セイヨウミツバチ, カリフォルニアポピー』

購入ご希望の方は書名と部数, 送付先住所氏名,
電話/FAX番号をお知らせ下さい。代金は書
籍送付時に同封する郵便振替用紙でアジア養蜂
研究協会宛にお送り下さい。なお頒価には送料
は含まれません。別途実費を申し受けます。

アジア養蜂研究協会 第4回大会 ファーストアナウンスメント (抜粋)

開催地: ネパール カトマンズ市, 国際会議場
日時: 1998年3月24日(火)~27日(金)

今大会を共催する国際団体 ICIMOD (国際山
岳地域総合開発センター) は, ヒンズークシヒ
マヤラ地域の動植物環境が急速に悪化して
おり, それに伴って地域住民の経済, 生活状態も
より困難になっているとの認識に基づき,
UNESCO の提唱で関係各国が協力してその対
策に当たるべく設立され, その本拠地をカトマ
ンズにおく。

山岳地帯の農民が生存最低レベルの生活から
脱却するために ICIMOD が計画する経済的,
生態学的に健全で, 持続可能な農業総合開発の
一翼を養蜂振興事業が担っている。在来種ミツ
バチによる養蜂は土地のない山岳地域の農民で
も手軽に始められ, 栄養価の高い食品と, 現金
収入をもたらす。同時にミツバチは野生の植物
や栽培作物の花粉媒介を助け, 多様な植物相の
維持と豊かな農作物の実りに貢献する。

ネパールで開催されるアジア養蜂研究協会第
4回大会を養蜂家, 科学者, 環境専門家, 開発
担当官, 関連事業の従事者が一堂に会し, 互い

の経験を共有して, アジアの多様なミツバチと
その養蜂事情を理解する機会としたい。

目的:

- ・アジアのミツバチに関する科学的情報交換
- ・アジア独自の養蜂技術やミツバチ科学の紹介
- ・アジアのミツバチ生産物の重要性を見据え,
販売, マーケティング戦略を考える
- ・多様な環境を守る養蜂, 農薬の使用を減らし,
安全な環境を守る養蜂の重要性を理解する

テーマ (仮):

1. アジアのミツバチの生物学
2. アジアのミツバチの飼養管理技術とアジア
におけるセイヨウミツバチの養蜂
 - a. 病気と害敵
 - b. 養蜂植物と花粉媒介
 - c. 巣箱の形態と管理方法
3. ミツバチ生産物の市場調査/アジアの展望
4. 養蜂振興計画

登録費用: 1998年1月1日まで参加者 US
\$240 同伴者 US\$140, それ以降はそれぞれ US
\$290/\$190. ワークショップ: アジアにおけ
る持続可能な養蜂に関する指導者研修ワークシ
ョップを, 大会の前々日からアジア養蜂研究協
会と ICIMOD の共催で開催する。

展示会: ミツバチ生産物, 書籍, ポスター, 養
蜂関連器具などの展示会が開かれる。

論文の提出: 英語による口頭, ポスター発表を
募集する。希望者は英語 300 語以内の論文要旨
を 1997 年 12 月末日必着で大会事務局に提出
する。要旨集への収録は大会登録者に限られる。

セカンド・アナウンスメントは 1997 年 7 月発
行の予定。

お問い合わせは下記アジア養蜂研究協会まで。
連絡先:

〒194 町田市玉川学園 6-1-1
玉川大学ミツバチ科学研究施設内
アジア養蜂研究協会
担当: 榎本ひとみ

TEL/FAX: 0427-39-8685

郵便振替口座番号: 00180-6-549964

口座名: アジア養蜂研究協会